

琉球大学学術リポジトリ

日本事情では何を教えるべきか

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学留学生センター 公開日: 2008-07-03 キーワード (Ja): 日本事情, 異文化, 体験学習 キーワード (En): Japanese culture (Nihon jijo), interculture, three minutes speech 作成者: ケリ, 綾子, Kelly, Ayako メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/6577

日本事情では何を教えるべきか

ケリ綾子

要 旨

日本語を習得する上で、日本を理解し学習意欲を向上させるために、日本事情のテーマとしてふさわしいものは何か、そしてどのようにして授業を進めていくのが効果的なのかを、アンケート結果をもとに考察しカリキュラムを構成し実践した。その結果、特に実習、体験学習、見学を通して学ぶことに留学生は意義を見出していることがわかった。また留学生の発表する活動については、教室外での学習を促すことになり、自ら取り組み理解を深めることができた様子がうかがえた。つまり、日本事情のカリキュラムの組み立てや内容を考えるにあたっては、情報を与えるに留まらず、能動的な活動を取り入れる必要があると言える。さらに異文化を理解し、受け入れ、また自国文化との相違点や共通点などを考え、意見を述べることが出来るようなテーマを選ぶ必要があると考えられる。

キーワード：日本事情、異文化、体験学習

1. はじめに

「日本事情」の授業を担当するにあたり、留学生に日本の何について教えるのか、また、どのように教えたらよいのかを考えた。授業時間が週一回であり、時間数に限りがあること、他の日本語のクラスで扱っているテーマとの関連をどのようにするかが問題となる。また、日本語のレベルはというと、中級の留学生を対象としたクラスであるが、国で日本語を専攻して学習を積んできた留学生から、日本に来てから日本語学習を始め、1～2年という留学生もおり、日本語のレベルに差がある。日本語を専門とする学生と、生活を通して学習している学生との間には日本への興味関心の差がみられると思われる。

日本事情の教育の目的とは何かについて、小林(2000)は、「事実関係を正しく認識すること。それに対する意見を日本語で論理的に構成できる能力を身に付けること。」と述べている。教師が何かを教えるというより、いかに学生に自分の意見を言わせるかが重要であり、「正しい知識がよりの確に伝達できるようにという在り方」よりは、

むしろ「学習者自身の考え方を表現することができるように、環境や材料を整えるような在り方」が強調されるのである。

また奥田 (1988) は、「学生中心」の授業の方向付けとして、「留学生のニーズ・興味・意欲を大切に、留学生が主役を演じる授業をとおして、日本語の力を伸ばし、日本及び、日本人についても、自ら発見し、見極めていく力をつけるためのよりよい授業はどうあるべきか」を課題にしてきたと述べている。さらに細川 (1999) は、日本事情をどう教えるべきかというテーマで日本事情を教える教師は「留学生との交流の中で、留学生に「日本とは何か」ということを考えさせることができるような方向にもっていきける人、それがプロではないか、と述べている。(細川 1999)

日本事情の教育の目的を達成するために、どのようなテーマを取り上げるべきなのかを探るために、日本事情で留学生は何を学びたいと考えているのかを調査してみた。また、テーマ選びの参考にするために、日本人は外国人に日本について何を紹介したいと考えているのかを調査することにした。

2. 留学生に対する調査結果

留学生が日本事情として学びたいと思っていることについて初級修了の留学生13人を対象にアンケートを実施した。

2-1 日本事情のクラスでしたい体験学習

どんな文化を体験したいかについて選択式できいたところ表1のようになった。

表1 体験したい文化 (人)

書道	11	水墨画	6	着付け	6	折り紙	2
茶道	2	紅型	1	着物作り	1	華道	0

(複数回答有)

その結果、書き初めとして一度体験した書道をもう一回学習したい留学生が11人と多かった。2番目に希望が多かったのは同じ墨や筆を使ってする水墨画であった。一方、一度も話題として取り上げなかった華道については興味を示す者がいなかった。着付けはゆかたを着て花火などの行事に参加してみたいのという理由と写真に撮って記念に残せるからという理由のようであった。書道も作品として残るという理由も考えられる。

2-2 何を学びたいか

何を学びたいかについて、記述式で答えてもらったところ、次のような項目が上がった。

- ①有名な遺跡とその関連した話
- ②日本社会（日本で今起こっている事件を新聞を利用して）
- ③本や新聞が読めるように（知識があれば理解できるから）
- ④伝統行事、祭りの伝来
- ⑤毎日の会話（あいまい表現、若者言葉、若者が間違っている言葉）
- ⑥経済
- ⑦健康
- ⑧日本の歴史

伝統的な事柄に加え、新聞や本を読む時に理解の助けとなる知識を学びたいと思っており、また、日常生活で必要となる日本語独特の表現方法や留学中に会う日本人学生とのコミュニケーション場面で必要となる若者言葉の学習を上げた者がいた。

2-3 沖縄に住んでいて、特に知りたい日本事情

他の県から離れた沖縄にいる留学生が、日本に留学しているが沖縄では学びにくいと思っていることはないだろうか、質問した。

- ①日本全国の地理
- ②日本の伝統的な舞踊
- ③流行っているファッション

「日本全国の地理」という回答は、沖縄にいと隣の県がどのようなものか身近に感じる事が少ないが、読み物の中には全国の地理や地名が出てくることが多いため、位置や気候などの特色が分かれば、読み物の理解もしやすくなるだろうとのことだった。日本で生活していく中で耳にする会話やテレビのニュースなどを理解するために必要とされる知識を求めているように思われる。

3. 日本人学生に対する調査結果

一方、日本人は日本・日本人をどのようにとらえ、日本事情としてどのような事を考えるのか、64人の県内大学生を対象にアンケートした。

3-1 日本が誇れるもの (こと)

大きく日本文化と答えた10人を筆頭に、伝統芸能や音楽、浮世絵など文化的なものを誇りに思っている人が多いことが分かった。ロボット技術や経済力などをあげた人はいなかった。武士道と答えた人が2人いたのはテレビの侍ドラマがヒットしている影響があると思われる。

表2 日本が誇れるもの (人)

日本文化	10	伝統芸能	6	武士道	2
歴史的建造物 (世界遺産・城)	9	着物	5	庭園	2
日本の料理	8	わび, さび	5	浮世絵	2
四季	7	音楽 (津軽三味線)	3	紅葉	1
日本語 (難しさ, あいまいさ, 言い訳のうまさ, たくさんの方言)	7	風景 (富士山)	3		

(複数回答有)

3-2 日本人の特徴

日本人学生が日本人をどのように捉えているのかを知るために、日本人の特徴を答えてもらったところ、次のような意見が出た。回答したのは64人中18人だけであり、日本人はこうだと特徴付けることは難しかったようである。

- ①物腰が低い
- ②礼儀正しい
- ③思いやりの心
- ④勤勉さ
- ⑤義理人情
- ⑥忠心
- ⑦時間に厳しい
- ⑧集団生活を大切にする
- ⑨真面目さ
- ⑩手の器用さ
- ⑪シャイなところ
- ⑫戦後の復興力
- ⑬金持ちの国
- ⑭工業技術
- ⑮時間通りに来る電車
- ⑯他国の長所を取り入れて自分達で工夫しようとするところ
- ⑰日本に生まれて良かったと思わせる今の日本の実情

⑩自分が日本のことを知らないので、何とも言えない

日本の集団意識やサラリーマンについて紹介する上で欠かせない特徴が多くあがっていると言えるのではないだろうか。

3-3 留学生に日本を紹介するとしたら、何を教えたいか

日本文化、伝統芸能以外に、学生どうしとして日常生活において紹介できることを挙げている。エイサーやおにぎりの作り方、若者の遊びなど、実際に実演できることを紹介したいと思っていることがわかった。

表3 日本について留学生に紹介したいこと (人)

日本文化、伝統芸能 (茶道、華道、琴、エイサー)	14	日本料理 (盛り付けのきれいさ、味噌汁、おにぎりの作り方、醤油、刺身、箸の使い方)	13
わびさびの心	4	相撲	4
京都	4	歴史	3
日本的ゲーム (将棋、竹馬、こま)	4	沖縄	4
武士道、侍魂	2	若者の遊び	2
		各地の名所	2

3-4 その他

日本・日本人の特徴や留学生に紹介したいこと以外に思い付くこととして、次のようなコメントが得られた。

- ①今の日本人が忘れてしまったものを教えてほしい。
- ②ありのままの日本を見て、そこから感じとる日本を教えてほしい。
- ③紹介したいとは思わないが、相撲・芸者・侍に憧れていてもらいたい。
- ④紹介したいことが見当たらない。

日本人学生は留学生がどのように日本をとらえているかを知りたいと思っており、日本に留学し日本語・日本文化を学んでいる留学生に映る日本像を知りたいと考えている。一方的に日本について知らせるだけでなく、留学生から学ぼうという姿勢がうかがえる。

4. 授業の実際

4-1 テーマの選択

以上の結果を参考に、日本事情で取り上げるテーマを決めカリキュラムを組み授業を進めた。学生自ら考え日本語を使って発表するように3分間スピーチも実施し1人

一回ずつ発表できる機会を設けた。

表4 日本事情Ⅰ 予定表

月	日	テ ー マ	教 材 等
4	16	授業の進め方 日本のイメージ	
	23	日本の気候, 風土, 地理, 日本の一年	ビデオ 日本—その姿と心— 「自然・習慣マナー」
	30	日本の家族 (結婚, 家族構成, 平均寿命)	
5	7	日本の衣服 (ゆかた着付け実習)	ゆかた
	14	贈答文化, 自分の国との比較	ワークシート
	21	京都の魅力 (歴史, 建築物)	ビデオ「京都の魅力シリーズ」
	28	日本料理	ビデオ プロジェクトX「魔法 のラーメン 87億食の奇跡」
6	4	日本の教育 (1)	パネリスト 西原中学生徒5名
	11	日本の教育 (2)	ビデオ プロジェクトX「ツッ パリ生徒と泣き虫先生」
	18	日本の歴史 (1)	『日本を話そう』会話形式CD
	25	日本の歴史 (2)	
7	2	日本の歴史 (3) 学生の発表	
	9	日本の伝統文化	
	16	日本の伝統文化	ビデオ「京都の魅力シリーズ」
	23	日本の文化実習, 体験	水墨画

4-2 3分間スピーチ

日本と自国の文化や習慣を比べ、相違点や類似点を認識し発表することにした。一回目の授業時間を使い、発表のテーマを決める参考となるようにグループでの話し合いを実施した。話し合いの前期のテーマは「日本での体験の中で変だと思うこと（ここが変だよ日本人）」、後期は「留学前の日本のイメージ/留学後目にした日本」とした。グループ分けではなるべく同国者が集まらないように配慮した。その後、全体でどんなことが話題になったかを話し合った。後期では会話量を増やすためにペアで話し合い、数分毎にパートナーが変わるようにしてみた。学生の日本語会話力に差があっ

たので、異文化体験はしているが発話を躊躇してしまう学生をなくすために試みた。3分間スピーチは一回の授業で一名が望ましいが人数の関係で毎回2人とした。発表後、聴衆は全員起立をして質問に移る。発表者は簡潔に答えていくことにし、全員が疑問を持って聞けるような場作りをした。質問終了者は着席できることと、同じ質問はできないので早く質問をしてしまおうとするためスピードは増した。日ごろ疑問に思っていたことがここで解決したという感想も聞かれ、発表者の国のことだけでなく他の国での考え方も聞くことが出来、活発な質疑応答となった。一つ問題は人数が多いと時間がかかり過ぎることである。時間短縮のために、質問者数を限定したら、日本語力の差で発言回数がかたよってしまったので、問題が残った。発表後の質問で「自国のことを知らなかったことを認識した。もっと調べたい」という感想も聞かれた。

4-3 日本の教育

日本の教育制度、進学率、学校での問題等の説明に加え、飛び級制度について考えてみた。「もし、自分の子供が飛び級を勧められた場合、親として飛び級をさせるか」というテーマで話し合いをもった。3人のグループ→全体→賛否に分かれての討論という形態をとってみた。その後の感想では次のようなものが出た。

- ①「自分ではなく自分の子供という設定だったので、客観的に考えられた。」
- ②「今まで飛び級について考えたことがなかったので新鮮だった。」
- ③「いじめのことも心配になった。」
- ④「才能を伸ばすのには飛び級は必要。」
- ⑤「将来教師になりたいので真剣に考えた。」
- ⑥「同年齢とのかかわりが大切であり、能力で切り離すのは問題だ。」
- ⑦「国でも日本の教育制度について学んだが、ただ暗記しただけで、このように考えることはなかった。」

4-4 ビデオ プロジェクトX

「ツッパリ生徒と泣き虫先生」京都にある荒れた高校に赴任した新任教師、元全日本ラグビー代表が、ラグビー部を全国一にするために奮闘努力する実話に基づく話である。言葉の説明やこの時代のつっぱりについて説明をした後でビデオを視聴した。感想をレポートにして提出することを宿題とした。感動したという感想が多かった中で、教師経験者は自己反省・教育というものを考え直した・教師になりたい・高校の教室とか廊下の様子なんかがわかったというのもあった。

4-5 パネリスト：職場体験に訪れた中学生

琉球大学が中学生の職場体験を受け入れており、5人来るというので、パネリストになってもらい留学生から中学生への質問タイムをもうけることが出来た。制服、中学校の授業、クラブ活動、塾、テスト、将来の希望など生の声が聞けたのは良い機会であった。中学生も相手が留学生であるのと、授業のアシストをするようにと指示されていたこともあり、素直に自分の考えを色々と話してくれた。留学生にとっては、勉強したことが本当であるかを確認することが出来、疑問に思っていたことも確かめられて良かったと話していた。琉球大学には付属中学校があるので、教育実習やテスト期間を考慮し、見学を実現したい。

4-6 日本の伝統文化

歌舞伎、能、狂言、文楽、茶道、華道などビデオで見せることが出来るものを候補として考えた。茶道を取り上げた時は、お手前をする方ではなく、お茶会に出る側について学んだ。時期としては大学祭前を選び、茶道部の茶席に出よう勧めた。実際に体験した留学生もいた。

歌舞伎については、演劇にあまり興味がないという学生も多かったので、「隈取りなどはっきりした化粧はどのようにしてか」という問いから入り、学生に想像させ意見を言わせながら進めた。舞台装置や照明などの説明をし、現在の演劇との違いを考えるようにした。歌舞伎の歴史の説明では、日本の歴史をしてから文化に入ったので時代の様子は分かりやすかったようである。テーマを教える順番も考慮が必要であると認識させられた。

留学生からの質問に答える時間を設けたところ「女形は普段の生活でも女のようにしているのか?」、「歌舞伎役者の家に生まれなかった者でも役者になれるのか?」、「女性は今も歌舞伎が出来ないのか?」、「沖縄でも歌舞伎が見られるか?」など多くの質問が出た。

インターネットなどで資料が入手しやすいだろうと考えたのと学生が日本文化としてどのようなことに興味を示すのかを知りたいと思い、伝統文化の2回目の講義では、学生のグループ発表にした。発表をするというのは1時間目の授業の進め方のところで予定表で知らせ、題材選びが早くから出来るように留意した。前年度の留学生の発表を念頭に置き、発表の題材や方法を詳しく話した。特に日本語での発表は苦手だという留学生には実物を持参し説明することや、写真や絵などを使うように促した。

留学生が取り上げたテーマは茶道、忍者、着物、武術などであった。茶道は浴衣を

着て、教卓にごぎを敷いて茶席に見立て、お茶会に行くという劇仕立てで、茶道の歴史や作法などをわかりやすく説明しており、「分かりやすかった」、「お茶が飲めて良かった」、「本当の茶室でやってほしかった」などの感想があった。忍者も劇風に説明しており、カーテンの影や机間から飛び出してきたの説明には見ていた留学生の度胆を抜くような奇抜さがあった。折り紙の手裏剣も飛んでいた。実際に道場に行き学んできたことも加えながら空手を説明し、棒をまわして棒術を披露したグループもあった。日本の年中行事と平行しての着物の種類の発表も苦労の後がみられた。与えられる情報ではなく、学生自らが調べ発表したことで、活発なクラス活動となった。ビデオに撮っておけば、来年度、グループ発表をさせるための参考として学生に見せられたのだが、撮影しなかったことが悔やまれる。

4-7 実習と体験

4-7-1 ゆかたの着付け

実習後、ゆかたを実際に購入し日本人学生とエイサーを見に出かけた留学生もいた。初めて実施した時は普通教室でやり汗や裾の汚れがひどかったが、2回目では床に敷くためのシートも購入してもらい、教室も温度調節が出来る教室が使用できた。

4-7-2 水墨画の実習

竹を題材に筆運びや墨の濃淡について学んだ後、実習に移った。手本を数種類用意し、構図は応用を利かせて自由に描くことにした。個性的な興味深い作品に仕上がりに、その作品発表の場としてスピーチ大会会場ロビーで展示が出来たのは良かった。

実習、体験をすることで日本文化を身近に感じるようで、写真に残そうとし、留学生どうしが仲良くなるきっかけともなり、クラスがまとまり授業が進めやすくなる効果もあったように感じた。

5. 授業評価

学期の最後に留学生に「日本事情のクラスで何がしたかったか、望むこと」を無記名で自由に書いてもらったアンケートから声を拾ってみることにする。

5-1 ビデオについて

- ①講義だけでなくビデオも見られるのはうれしい。
- ②もっと見たい。
- ③教育のビデオが良かった。
- ④ビデオが多いと眠くなる。

- ⑤ビデオを見ると理解しやすいので回数を増やしてほしい。
- ⑥ビデオの設置してある教室でやってほしい。
- ⑦ビデオをみることはけっこう楽しかったが実物も見たい。

視覚から入ることは印象にも残り、理解の助けになったと思われる。即席ラーメンのビデオでは、各国のラーメンの映像や災害救済用としてラーメンが配布されている映像に自分の国が出て来た時には、留学生の反応が高まった。教育についてのビデオでは、不良だと言われていた学生が卒業後海外で活躍する様子に反応が集まった。留学生の出身国に関連する事柄が出るビデオは、ビデオの内容に興味を持たせるためにもいい教材になると言える。

5-2 体験・見学について

- ①もっと実際の体験がしたい。
- ②機会があれば、見学しながら勉強するのも役に立つと思う。
- ③本物を実際に見たい。（例えば相撲の勉強をしたら、その後で相撲の試合を見に行く）
- ④本やテレビなどで世界中のどこからでも勉強できると思うので、せっかく日本に日本のことを勉強しに来たのだから実物を見たい。
- ⑤見学に行きたい。
- ⑥みんなで博物館とかに行く機会があったら良かったと思う。

日本にいる実感がわく見学や体験を望む声が多かった。

5-3 話し合いについて

- ①グループにやる気のない人や参加しない人がいるときは役に立たない。
- ②グループの中で日本語力の差があったので大変そうな人もいた。
- ③がんばっていたが大変そうな人もいた。

記載はされなかったが、色々な国の人の違った意見が聞けたのは良かったという声があった。

5-4 テーマについて

取り上げなかったテーマで、学びたかったことは、次の三つであった。

- ①日本の若者
- ②日本の料理の作り方
- ③日本のお菓子

若者について、言葉やファッション、考え方など次回のテーマとして取り上げてい

く予定である。

5-5 その他

- ①ビデオや資料を見た後、宿題によってもっと深く勉強してみたい。
- ②伝統文化をもっと深く学ぶためにレポートを提出するほうがいい。
- ③一週間に2回あるほうがいい。
- ④プロジェクトとスピーチはいつもあるほうがいい。
- ⑤教材がとてもわかりやすくて良かった。
- ⑥日本の文化を理解することは大切だ。
- ⑦日本語があまり上手ではないので、授業中難しい言葉を説明してほしい。

5-6 前期 日本事情のクラスを受けて

日本事情のクラスを受講した韓国7人、中国5人、台湾1人、タイ4人、インドネシア1人、シンガポール1人、スロバキア1人、ペルー1人、ウクライナ1人の合計22人の留学生を対象に、受講後どのような感想をもったかを知るためにアンケートを行なった。

表5 興味を持ったテーマ (人)

日本の衣服 (浴衣着付け実習)	7
歴史	5
贈答文化	4
日本料理	3
伝統文化	2
京都の魅力	2
地理, 風土	1
結婚, 家族構成	1

(複数回答有)

その他に、5人の留学生はスピーチが良かったと書いていた。

5-7 日本事情のクラスを受講する意義

日本事情のクラスを受講して、良かったあるいは役に立ったと思われることは何かを書いてもらったところ、次のような声が拾えた。

- ①ビデオを見てからグループに分かれてのディスカッションで自分の意見が言えた。

- ②ビデオ視聴は役に立つ。
- ③学んでいる日本語を使って活動出来た。
- ④日本語で交流が出来るいいチャンスだった。
- ⑤日本に対して理解が深められただけでなく、自国の文化と比較することが出来た。
- ⑥日本を知るようになって、自国の文化も見えるようになった。
- ⑦世界観が広がった。
- ⑧発表するために調べ、より興味がわいた。
- ⑨自国の大学で専門として日本事情のクラスはとっていたが、難しかったので、このクラスも難しいだろうと不安だったが、他の学生の意見も聞けて、有意義であったと共に日本語力をもっとつけたいと思った。
- ⑩日本のことを学ぶきっかけになった。帰国したら国の大学でも日本事情のクラスをとってもっと勉強したい。
- ⑪このクラスをとってから京都旅行をしたらよかった。いい所を見逃した。
- ⑫日本事情のクラスは国際的な会話と言えるのではないか。

6. まとめ

日本にいるから出来る体験や見学を考える必要がある。時間的制約もあるが、クラス全体では行けなくても個人で参加できる情報を提供すること、例えば、大学祭や地域の催しで体験できること、長期休暇を利用して他府県での体験、見学情報など、専門家や体験者、日本人学生とのかかわり合いによって学べる機会を作り出すことも必要だと思われる。ビデオへの反応が強かったので、大いに活用していきたい。実物を見たいという意見も多く、実物は見せられない場合でも、写真や絵など資料として使うように、短時間のビデオを活用すべきだと強く感じた。

話し合いのグループ分けて、国籍、日本語力、性別などを配慮するだけでなく、日本語力の差があったとしても、留学生が発言できるように資料にルビをふる、話し合いの助けとなる資料を作る、各テーマについて考えたり調べたりする時間が持てるように事前にプリントや資料を配布するなど工夫が必要であることがわかった。

参考文献

- 水谷修・佐々木瑞枝・細川英雄・池田裕 (1995) 『日本事情ハンドブック』大修館書店
- 佐々木倫子 (1999) 「『日本事情』の教育方法－ビデオを用いた3地域意識調査から」
『21世紀の『日本事情』』編集委員会編『21世紀の『日本事情』日本語教育から
文化リテラシーへ』くろしお出版, 28-39
- 田中望 (2000) 『日本語教育のかなたに』アルク
- 砂川裕一 (2000) 「日本を教える－実践いろいろ－実践授業のヒント」『日本語を教え
たい人の日本を知るための本』アルク, 94-96
- 細川英雄 (1999) 『日本語教育と日本事情－異文化を超える－』大修館書店
- 奥田久子 (1988) 「学生中心の『日本事情』－基本的な着眼点と授業研究－」『日本語
教育』65号 日本語教育学会, 51-63

(琉球大学留学生センター非常勤講師)

What Should We Teach in Nihon Jijō Class?

KELLY, Ayako

Keyword : Japanese culture (Nihon jijō), interculture, three minutes speech

Abstract

What themes of Japanese culture (Nihon jijō) are suitable for Japanese learners, will help them understand Japan, and will increase their enthusiasm for studying Japanese, and what methods of teaching foreign students to make them like learning? Based on the results of a questionnaire, I made a curriculum and tried it out. What I found was that foreign students preferred to study Japan through actual training, various experiences, and fieldtrips. Having student give presentations gave them a chance to study outside of the classroom, and it made them study deeply. According to these results, when you plan a curriculum, it is necessary not only to give students information but also to create opportunities to do activities. We have to choose themes that help students understand and accept another culture, that get them to think about differences and commonalities with of their own culture, and that provide them with the opportunity to express their opinions.

(University of the Ryukyus)